

# 最新事情

気付きを得て、目標を明確に  
追大キャリア形成支援プログラム

## 追手門学院大学

(大阪府茨木市)

昭和41年開学の追手門学院大学。常に時代の変化に敏感で、社会のニーズに合わせた学びやさまざまな取り組みを展開している。「追大キャリア形成支援プログラム」もその一つ。就職だけではなく、卒業後どのように活躍するか。どのように人生を歩むか。同プログラムを通して学生は4年間、考え抜く。就職・キャリア支援課の取り組みを伺った。

### 1年次から4年次まで キャリア関連の科目を設置

追手門学院大学は平成28年に創立50周年を迎える総合大学だ。経済学部、経営学部、地域創造学部、社会学部、心理学部、国際教養学部の六つの学部を持つ。

約6500人の学生が学ぶ広大なキャンパスには一般教室だけでなく、グラウンドをはじめとするスポーツ関連施設も充実している。平成26年度に「スポーツキャリアコース」を開設し、スポーツ教育や競技に取り組む学生のサポートも強化。オリンピック出場を夢見て練習に励む学生もいて、学内は活気であふれている。

学生の挑戦を後押しする環境が整っている同学。充実したキャリア支援体制も自慢の一つ

だ。同学では「追大キャリア形成支援プログラム」を構築し、1年次から4年次まで、キャリア関連の正課科目を設置し、体系的なキャリア教育を実践している。

同プログラムの狙いについて、就職・キャリア支援課の下川邦泰課長は次のように話す。

「就職を含め、卒業後の人生をどう生きるかを学生に考えさせることが大きな狙いです。そこで重視しているのが、学生の気付き。社会を軸にして自身を見つめ直すことで、今の自分に不足している能力に気付き、それがさらなる学びへの意欲につながります。このサイクルを機能させるために、『理論』と『実践』を両輪とした取り組みを展開しています。1年次からキャリア教育を行うことで、早い段階で学ぶ意味と自身の進路について考えてほしいのです。」

同プログラムの具体的な内容については後述するが、実社会との関わりを重視したプログラムが多く「企業のリアルな課題に取り組める実践型のインターシシップや、PBL型（課題解決型学習）の授業である『プロジェクト』を展開している」と下川氏は続ける。

「キャリア形成支援プログラムを展開し、キャリア教育を学校全体で意識するようになってから、教職員一丸となって『学生を支援していこう』という流れになってきました。昨年度の就職率は98・3%。ここ数年、高い数字を維持することができています」と話すのは就職・キャリア支援部の野出靖宏部長だ。



昭和41年開学の追手門学院大学



(左から)  
就職・キャリア支援課の下川邦泰課長と  
就職・キャリア支援部の野出靖宏部長、  
資格サポートコーナーの専任スタッフである  
吉本結さん

3年生全員に配布される「就職支援行事年間スケジュール」。5色で色分けされていて、いつ、何をすべきかが一目瞭然(下)。「今と未来をつなぐ場所～タイプ別就職・キャリア支援課活用法」という冊子(右)には、同課の活用事例が豊富に掲載されている



|         | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 就職ガイダンス |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 企業説明会   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 就職面接    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 卒業式     |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |



就職・キャリア支援課が入る建物。  
ここで学生の支援を行う

「1年次にキャリア形成について理解を深める『キャリアデザイン論』という正課科目を開設しています。1年生全員が履修するため、参加者は約1700名。授業では個人ワーク、ペアワーク、グループワークなども多く取り入れられています。教員や外部講師の協力がなければ、到底実現できるものではありません。皆が同じ方向を向いて、学生をサポートしていこうとい

## 小規模大学並みの 手厚いサポートを目指す!

う気持ちは何よりも大切だと思います」。

では、具体的にキャリア形成支援プログラムの内容をご紹介します。

キャリア関連の正課科目は現在、1年次から4年次の間に6科目ある。1年次に展開されるのは、先ほど野出氏の話に出た「キャリアデザイン論」と「プロジェクト入門」の二つ。

「プロジェクト入門」では、学部・学年を横断したPBL型授業「プロジェクト」を受講するために必要な心構えや、多様なものの見方・考え方を学び、併せて新入生同士の結び付きを強める。「プロジェクト」を受講するためのレクチャーと言ったところだ。

続く2年次では、「キャリア形成論1」と「キャリア形成論2」が展開される。それぞれの特徴について下川氏はこう説明する。

「自分のことと社会を知ることを通して、将来のキャリアビジョンを描く。それがキャリア形成論の狙いです。『キャリア形成論1』では、学生自身が何に興味があり、どのような能力があるかを知ることが主なテーマになります。『キャリア形成論2』では、社会にどのような仕事が存在するのかを知り、働くことについて考えるきっかけを与えています。ここでは社会人講師を招き、働き方はもちろん具体的なやりがいや苦労、そして生き方についても話してい

ただきます。学生には社会人の働き方、生き方を通じて多くの気付きを得てほしいと考えています」。

就職活動がいよいよ本格化する3年次では「キャリア形成論3」と題し、業界や興味、関心のある職業について理解を深めさせ、進路選択の思考を養う。就業力を磨き、進路を決定するために必要不可欠な時間だ。

就職活動が終わっても、キャリア教育終了とならないのが、同様のプログラムの特徴である。4年次、学生たちは「社会人の基礎」で学生から社会人へのスムーズな移行を目指す。野出氏は同科目の狙いを次のように説明する。

「この科目では、仕事を進めていくための考え方や、同僚と仕事していく上でどのようにコミュニケーションを取っていけばよいかを学びます。在学中にいろいろ教えたとしても、社会人になってから気付くことも多くあるはず。ときには落ち込むこともあるでしょう。入社後ぶつかるであろう悩みや、ミスをしたときのフォローも含め、社会人として職業生活でも求められる能力の向上を目指しています」。

早い段階から自身のキャリアを見つめることで、就職を希望する9割以上の学生が卒業までに内定を得ている。同プログラムの大きな成果と言えるのではないだろうか。

「私たちが目指すのは、中規模大学にして小規模大学並みのきめ細かいサポートです。就職支援では、分かるからできるを支援目標と



(左から) 経営学部3年生の森本愛莉さんと吉川晋太郎さん。二人とも資格取得に意欲的で、「卒業までにより多くのことが学べるよう、資格や検定に挑戦したい」と話す

して取り組んでいます。具体的には、就職ガイダンスで活動の流れや必要な対策を説明した後、必ずフォローするための中・少人数型のセミナーや講座を開催。これは就職活動における「実践力の強化」を狙いとして実施しているもので、講座によっては少人数クラスを30以上開設して、ほぼ全員がワークショップに参加しています。また全学生の状況を把握することも目指しています。徹底した学生の進路把握と実践力強化の取り組みを通じ、手厚い支援をしていきたいと考えています」と下川氏は意気込みを見せる。

## 秘書検定取得で得た自信、就職活動で生かしてほしい

同学では昨年4月に「資格サポートコーナー」を新設した。社会で役立つさまざまな資格や検定の講座を開講し、学生の挑戦を後押ししている。「秘書検定2級対策講座」は人気講座の一つ。今年6月の対策講座の受講者は91名で、うち19名が男子学生だ。「男子学生は年々増えている」と話すのは、資格サポートコーナーの専任スタッフである吉本結さん。吉本さんは秘書検定の学習が学生にプラスとなる点についてこう続ける。

「秘書検定では、社会が必要とされるマナーを理解し、身に付けることができます。在学中に秘書検定を学習することで、就職活動や社会に出てからの活動に、自信を持って取り組みむこと

ができると思います。挑戦しようとする学生の意欲が、合格として実を結ぶよう、全力でサポートしています」。

その言葉通り、同コーナーでは出席や宿題の提出を管理している。期日までに提出がない場合、連絡して状況を尋ねる。

「それだけに限らず、学生の様子を細かく講師に伝えるようにしています。学生の状態を共有することで、より手厚いフォローが実現できます。私自身2級を取得していますので、学生が学習に行き詰まったときは、「こうやって勉強するのいいよ」とアドバイスしたりします」と吉本さんは話す。

実際に同講座を受講し、秘書検定に合格した学生に話を聞いた。吉川晋太郎さんは昨年6月に、森本愛莉さんは昨年11月に秘書検定2級に合格した。森本さんは次のように振り返る。

「貸借対照表など、経営学部の授業で学んだことが幾つか出てきて、勉強がつながっていることに楽しさを感じました。秘書検定では、敬語をしっかりと学べてよかったです。正しい敬語に直す問題は少し苦手だったので、声に出して練習して覚えました。卒業後は銀行に就職したいと思っていますので、窓口対応業務などで検定で学び身に付けたことを役立てたいです」。

吉川さんは「男子が少なく驚きましたが、クラスの雰囲気がよく学習に集中できました。大きな収穫は、正しい言葉遣いを学べたこと。卒業アルバム制作で社会人の方と接する機会

があるので、検定で身に付けたことを実践しています。季節のあいさつや慶弔のしきたりも学べました」と話し、「次は準1級に挑戦したい」と次の目標を聞かせてくれた。

さまざまなサポート体制で、学生が挑戦できる環境を整えている同学。「現状に満足せず、今後も学校全体でサポート体制を強化して取り組んでいきたい」と話す野出氏。さらなる先を見据えているようだ。



後ろの席の学生は近くのモニターで確認しながら受講



(上) 今年4月に開講された「秘書検定2級対策講座」。講座は座学が中心だがグループワークも交えながら進められる  
(左) 始めと終わりは必ずお辞儀をする